

輸出事業計画

※申請者名：J A 愛知みなみ、品目：スイートピー、グロリオサ、きく

1. 輸出における現状と課題

○スイートピー

海外での流通量が少ないためニーズが高く、令和元年頃から市場を通して輸出を開始。品質の高さが他産地との差別化につながっており、安定した需要が見込まれる。しかし、出荷期間が12月～3月と限られており、曇雨天により生産量・品質が不安定になる点、作業が煩雑で労力の確保が困難である点、高温・多湿条件下で、輸送中に灰色カビ病が発生する点が問題となっている。

○グロリオサ

平成26年頃から、取引先市場を通じて海外からの注文を受け輸出を開始。旧正月（1～2月）の需要が高く、中、小輪系のオリジナル品種がバイヤーから評価されているが、冬季は出荷量が減少する点、球根の供給が不安定な点が問題となっている。また、輸送時に発生する花傷から花全体に腐敗が広がり、ロスが発生することがある。

○きく

きくはこれまでに輸出実績はないが、海外からフルブルームマム（満開まで咲かせたきく）の注文が取引先市場に入るなど、関心が高まっている。しかし、オランダの種苗会社の品種を中心に、海外で広く流通している品目であるため、日本独自の品種等の生産により差別化が必要である。

○3品目共通

輸送コストの削減が必要。また、輸出国によって輸送期間が異なるため、到着時の咲き前が異なる。

2. 輸出事業計画の取組内容

○スイートピー

・施設の設備（LEDやヒートポンプ等）を整備し活用することで、曇雨天時の品質・収量向上及び出荷期間の延長を図る。

- ・部会として雇用者の研修制度を設ける等、技術力の高い雇用の確保に努める。
- ・市場等と連携して、灰色カビ病の発生状況を把握するとともに、効果的な対策を検討する。

○グロリオサ

・設備（暖房、ヒートポンプ等）の整備により冬季の生産性向上を図る。また、施設の規模拡大等により生産量の増加を図る。

- ・メリクロンによるオリジナル品種の安定生産に向けて、効率的な種苗の増殖体系の普及を図る。

○きく

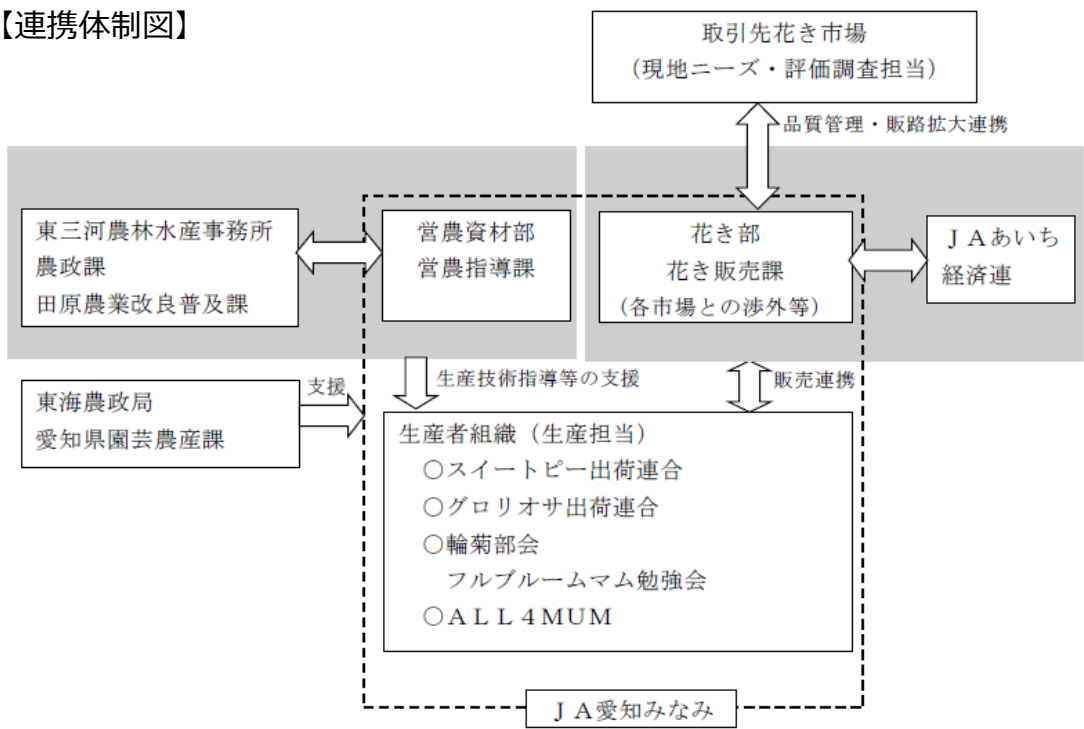
- ・県内オリジナル品種（かがり弁ギク）やフルブルームマムの生産に本格的に取り組む。
- ・また、フルブルームマムの生産体制を整備し、生産量増加に向けた取組を実施していく。

○3品目共通

- ・令和3年度に実施した輸送試験の結果から、輸送コストの削減について検討する。
- ・輸出国に応じた収穫時咲き前の調整に向けて検討する。
- ・取引市場等が実施する商談会や見本市などで情報交換、PRを実施する。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

【連携体制図】



※各組織が連携し、生産、流通、販売の課題に対してPDCAサイクルに基づいた検証を進める。

4. 輸出目標額

輸出額		(千円)
	実績 (R2年度)	目標 (R9年度)
スイートピー	4,930	6,300
グロリオサ	1,090	1,720
きく	0	1,000
合計	6,020	9,020

輸出先国		
	現状 (R2年度)	目標 (R9年度)
スイートピー	アメリカ、香港、シンガポール	アメリカ、香港、ロシア、シンガポール
グロリオサ	香港、ロシア、オーストラリア、シンガポール	香港、ロシア、オーストラリア、シンガポール、アメリカ
きく	—	中国、ベトナム